

# 複合辞の「ものか」と「ことか」について

高橋 雄一

## はじめに

この論文では、現代日本語に見られる下記のような「ものか」「ことか」という表現を取り上げ、筆者の観点から両者を対比させて論じる。

- 1) 絶対に負けるものか。
- 2) その話を聞いてどんなに驚いたことか。

先行研究では、1)のような「ものか」は、反語の表現とされたり、強く否定する気持ちを表すとされたりする。また、さらに他の用法も指摘されている。2)のような「ことか」は、疑問詞と共起して、詠嘆の表現とされたり、程度や量のはなはだしさを表すとされたりする。

これらは名詞述語文の疑問文（例：「これはあなたのものですか」「それはあなたも知っていることですか」）とは異なる表現である。このような「ものか」「ことか」は、一体となって文法的な意味・機能を持つと見なされるため、複合辞の一種として扱われる。

筆者は、「Nダ」のかたちを持つ複合辞の「ものだ」「ことだ」について、それぞれの文法的な意味や機能、また、文としての特徴が、もとになっている連体修飾構造の違いから生じているという見方をしている。ここでは、その見方によって複合辞の「ものか」と「ことか」の文についても対比し考察する。

このうち「ものか」は特に古くから用いられ、一語の終助詞と見なされることも多いが<sup>注1</sup>、本稿では、現代語においては「Nカ」形式の複合辞がいくつかあるという捉え方をし、その中でも「ものか」と「ことか」については対比させて見ることによりそれぞれの特徴がより明確になると考える。

なお、このような複合辞の「ものか」「ことか」は文語的な表現であり、現在では話し言葉はもちろん書き言葉でもあまり使われない印象があるかもしれないが、BCCWJのデータを見ると、例えば日常な話題を書いたブログの文

章にも使用されているようである。

- 3) その名も…チーザ(\*´Д`\*)このたびめでたく再販されたよう  
で、今度こそは食い逃すものか～！ と思って早速ゲットしました  
(\*´艸`\*) (BCCWJ: ブログ)
- 4) それにしても思い出す…昔 美容院でカット後に鏡渡されて「後ろの  
長さよろしいですか? ♪」って…「もうちと長くしてください」とは  
言えないでしょうに(⊖\_\_⊖)でも何度言いたかったことか(ρ\_\_ρ)  
(BCCWJ: ブログ)

### 1. 複合辞の「ものか」と「ことか」の対比

1では、複合辞の「ものか」と「ことか」を対比させる際の筆者の立場や考  
え方について一通り述べる。

#### 1.1 前提としての複合辞「ものだ」「ことだ」の捉え方

まず、論の前提として、「Nダ」の形を持つ、複合辞の「ものだ」と「こと  
だ」について、高橋(2010、2012)を発展させた筆者の捉え方を述べる。

複合辞の「ものだ」が表わす種々の意味は、従来の研究をもとに、〈当為〉  
〈回想〉〈願望〉〈感心・あきれ〉の4つのグループにまとめる。複合辞の「こ  
とだ」が表わす意味についても同様に、〈当為〉〈感心・あきれ〉の2つのグ  
ループにまとめる。

- 5) 学生は勉強するものだ。〈当為〉
- 6) 子供の頃はよくこの公園で遊んだものだ。〈回想〉
- 7) いつか私もそこへ行ってみたいものだ。〈願望〉
- 8) 困ったものだ。〈感心・あきれ〉
- 9) 試験に合格したいなら、勉強することだ。〈当為〉
- 10) 家族みんな健康で、けっこうなことだ。(グループジャマシイ 1998)  
〈感心・あきれ〉

こういった複合辞の「ものだ」「ことだ」の文としての特徴は、名詞「もの」

「こと」の名詞述語文の構造と関連させて捉えることができる。

「もの」の名詞述語文の場合、下の11)のように被修飾名詞と連体節の述語との間に格関係がある構造のみが可能である。本研究ではこの種の構造を「関係節の構造」と呼ぶ。「こと」の名詞述語文の場合、関係節の構造に加えて、下の13)のように、連体節が被修飾名詞の内容を表わす構造も可能である。本研究ではこの種の構造を「内容節の構造」と呼ぶ。

11) この本は昨日買ったものだ。(関係節の構造)

12) 私が知っていることをお話しします。(関係節の構造)

13) 私が海外で日本語を教えたことをお話しします。(内容節の構造)

複合辞の「ものだ」の文の場合、従来の研究において、関係節の構造との結びつきが研究の前提になる一方で、内容節的な構造も認められるところが問題となってきた。複合辞の「ことだ」の文については、名詞述語文の場合と同様に2種の構造が見られる。

このような視点から複合辞の「ものだ」文、「ことだ」文を捉えると、次のようになる。複合辞の「ものだ」に文法的な意味特徴を認めるとすれば、まず、従来の研究で多く指摘されてきたように、文の主語や述語が意味的に一般化される傾向があることから〈一般性〉が考えられる。しかし同時に、個別的内容でも複合辞の「ものだ」文は成り立つという問題がある。例えば、同じ〈回想〉の用法でも、下に再掲する6)では動作が“繰り返し”であるが、14)のように“一回”の場合もある。このように〈一般性〉があてはめにくい例についても文法的な意味特徴があると考えれば、「…ひどく驚いた。」のように「ものだ」がない述べ方に対して、話し手にとって文の内容全体が確定的であるという捉え方がより強く表わされていると考えられることから、〈確定性〉があると考えられる。

6 (再掲) 子供の頃はよくこの公園で遊んだものだ。〈回想 (繰り返し)〉  
〈一般性〉

14) その話を聞いた時は、ひどく驚いたものだ。〈回想 (一回)〉〈確定性〉  
こういった複合辞の「ものだ」文の特徴は、名詞述語文の関係節の構造が、

主体についての“属性”を表わす傾向があることと関連していると考えられる。例えば、「大したものだ」「困ったものだ」のように、動詞由来の連体詞、形容詞的な連体修飾部は、テンスや肯否、また主体といった文法範疇を捨象して“属性”を表わす表現になっていると言える。

一方、複合辞の「ことだ」の文は、〈当為〉の用法の場合、意志的な動作の  
みが対象となり、ある状況や条件において望ましい行為を示す表現である。

9 (再掲) 試験に合格したいなら、勉強することだ。

先の複合辞の「ものだ」と同様に、複合辞の「ことだ」にも文法的な意味特徴があると考え、上で見た「ある状況や条件において望ましい行為を示す」という表現の意味として〈指定性〉が考えられる。この特徴は、複合辞の「ことだ」文全体の特徴を考えた場合に三上(1953)、西山(2003)等が言う「倒置指定文」に類似していることから裏付けられる。すなわち、9)の「勉強することだ」のように、「ことだ」で意志的な動作を提示しているというのは、下の15)の「(何人かいるうち、)学生は(誰かという)太郎だ」の「太郎だ」の部分に似ていると言える。

15) 学生は太郎だ。(倒置指定文)

16) 太郎が学生だ。(指定文)

ただし、〈感心・あきれ〉の「ことだ」文については、「倒置指定文」との類似や〈指定性〉は、直接的には認めにくい。

10 (再掲) 家族みんな健康で、けっこうなことだ。(〈感心・あきれ〉の「ことだ」文)

しかし、森田・松木(1989:143-146)が言うように、この種の「ことだ」は「ものだ」と比べて、事態をより個別的に把握して話し手の評価などを示す表現と考えられるので、それは〈指定性〉に通じるのではないかと考えられる。また、こういった複合辞の「ことだ」文の特徴は、名詞「こと」が“内容”を持っていることを表わす傾向があることと関連していると考えられる。

さらに、このように考えると、先に見た複合辞の「ものだ」文については、「指定文」に対する「<sup>そてい</sup>措定文」(例：太郎は学生だ。)に類似していると見るこ

とができる。

以上のように、筆者は、複合辞の「ものだ」「ことだ」文は、もとの構造として考えられる連体修飾節を伴う「もの」「こと」の名詞文としての特徴が、意味・機能に反映されているという捉え方をする。ここで示した捉え方のうち、特に「(倒置) 指定文」「措定文」に関しては、稿を改めて論じる。

## 1.2 複合辞の「ものか」「ことか」の捉え方

上で見た考え方に基づき、本稿では「ものか」「ことか」についても同様に対比をする。

複合辞の「ものか」は、先行研究をまとめると、〈反語〉のほか、〈願望〉〈適当〉といった用法がある。これらの用法には「だろう」を伴った「ものだろうか」も含まれるが、あくまで「ものか」という形式を中心に考えると、〈反語〉が代表的と考えられる。

複合辞の「ことか」は、疑問詞を伴って程度や量のはなはだしさを表す用法のみがある。用法としては、「ことだ」の〈感心・あきれ〉の用法に類すると考えられるため、完全に同じ表現とは言えないが、本稿では〈感心・あきれ〉の用法とする。

- 1 (再掲) 絶対に負けるものか。〈反語〉
- 17) もう少し涼しくならないものかなあ。(グループジャマシイ 1998)  
〈願望〉
- 18) 反対派への説明はどうしたものかね。(グループジャマシイ 1998)  
〈適当〉
- 2 (再掲) その話を聞いてどんなに驚いたことか。〈感心・あきれ〉

ここで、このような複合辞の「ものか」「ことか」が疑問文とは異なるということをあらためて確認しておこう。「もの」「こと」の名詞述語文としての疑問文として、「これはあなたのものですか。」「それはあなたも知っていることですか。」あるいは「これは自分で買ったものか、人にもらったものか、覚え

ていない。」「彼の返事を聞いて、つまり反対だということかと思った。」といった例文が挙げられるが、それらは終助詞「か」が疑問を表し、聞き手に対する問いかけや、話し手自身の自問の表現になっている。これに対し、複合辞の「ものか」の〈反語〉〈願望〉〈適当〉、「ことか」の〈感心・あきれ〉といった意味は、ひとまとまりの表現として、話し手の事態に対する捉え方を表わしていると考えられる。

ただし、特に17)の〈願望〉、18)の〈適当〉は、聞き手に対する問いかけとしても使用されるので、上記の区別が完全に成り立つわけではないが、〈願望〉〈適当〉の問いかけの場合は「ものだろうか」の形であったり、終助詞「な」「ね」を伴っていたりするので、「ものか」という形式としては、話し手の事態に対する捉え方を表わすことが中心であると考ええる。

こういった特徴は、特に「ものか」による〈反語〉の表現について指摘されている。例えば、日本語記述文法研究会（編）（2003：50-51）は、一般的な疑問文などが派生的に反語解釈が得られるのとは異なり、「ものか」「てたまるか」は「反語的な意味が固定化した形式」であるとしている。

しかし、このような「固定化」は、〈反語〉だけでなく、他の「ものか」や「ことか」についても見られる。例えば「ことか」については、程度や量についての問いとその答えとしての「程度のはなはだしさ」の示唆が、疑問詞と「ことか」の形式によって「固定化」しているというように見ることができる<sup>注2</sup>。

このため、こういった現象を〈反語〉としてではなく、「Nカ」形式の複合辞の特徴として総合的に説明する必要がある。本稿では「ものか」と「ことか」のみを取り上げるが、他にも同様の表現として、接続助詞的な「どころか」「ばかりか」といったものを挙げるができる。

先に述べた複合辞の「ものだ」「ことだ」の文の把握に基づいて、複合辞の「ものか」「ことか」の文について考えると、「ものか」は〈確定性〉を特徴として持ち、文としては関係節の構造がもとにあり、さらに「措定文」的ということになる。一方、「ことか」は〈指定性〉を特徴として持ち、文としては内

容節の構造がもとにあり、さらに「指定文」的ということになる。しかし、これは、そのままあてはまるわけではないようである。

まず、「ことか」文については、「ことだ」文の〈感心・あきれ〉の用法に類すると考えられるため、「倒置指定文」との類似や〈指定性〉は、直接的には認めにくい。

「ものか」文については、山口（2004）が、「ものか」の反語文の構造として次の2種の構造を挙げ、Ⅰの構造が想定されるが、実際の状況を見るとⅡの構造を想定するのが適当としている。

- 19) Xは連体修飾節もの（である）か。（Ⅰの構造。「内の関係」か「外の関係」の構造かは特定していない）（山口 2004：（2））
- 20) Xが連体修飾節もの（である）か。（Ⅱの構造。「内の関係」の構造）（山口 2004：（4））

Ⅱの構造を想定する根拠になっている例文として、「そんな古いものが…」 「誰が…」 というように、主語がガ格で表わされている例文が挙げられている。確かに筆者のデータを見ても、これがすべてではないものの、〈反語〉の「ものだ」の文において目立つ傾向であることは確かである。

- 21) 僕たちは戦争に追いやられたが、僕たちの誰が戦争なんかしたいと思ったものか。こんな野蛮な、無智な、非人間的な戦争なんて、誰が悦んで参加するものか。（草の花）
- 22) 「おれが知るものか」とかれはいった。（死者）
- 23) 打つ手がないなどということはありえない。そんな馬鹿なことが、あつてたまるものか……（砂の女）

この「X ガ～するものか」という文型について、〈措定文〉〈指定文〉との関連を考えてみよう。「X ガ～するものか」という文型は、〈指定文〉を導き出す問いに似ている。

- 24) 誰が負けるものか。
- 25) 誰が学生か。（→太郎が学生だ〈指定文〉）

これは、先に示した「ものだ」文と〈措定文〉に関連があるとする見方に対する反例となってしまう。

ただし、「ものか」の文はあくまで反語の用法であるので、「誰が負けるものか。」に対応する答えは、「誰も負けない」（あるいは「誰も負けないものだ／誰も負けるものではない）」というように肯否における反対に限定されていると考えられる。これは同様に、否定の問いの場合についても考えても、下の例のように「誰でも負ける（誰でも負けるものだ）」になり、反語として示唆されている答えは、「ものだ」と同様に〈措定文〉に似ていると考えることができる。

26) 誰が負けるものか。（→誰も負けない（ものだ））

27) （そんな勝ち目のない勝負に）誰が負けないものか。（→誰でも負ける（ものだ））

さらに、先に22)に示した「おれが知るものか。」のような主体が特定の場合について考えてみても、「（→おれは知らない（ものだ））」のように、同様に〈措定文〉に似ていると考えられる。

### 1.3 南（1974、1993）の文の階層構造を参考に

〈反語〉の「ものか」の用法が、肯定に「ものか」を付けることで否定を示唆するということは、肯否に焦点を当てた表現であると言うことができる。一方、「ことか」については、「どんなに」「何度」といった疑問詞と「ことか」によって、程度や量のはなはだしさを示唆するということは、出来事の程度や量の側面に焦点を当てた表現であると言える。

この違いについて、文の構造との関わりから考えるために、南（1974、1993）の文の構造の四段階の階層を参考にする。言うまでもなく、この階層構造はさまざまな連用形式の「従属句」を対象としているので、本来は、複合辞の「ものか」文、「ことか」文をあてはめることはできないが、考察の手がかりにすることを試みる。

〈反語〉の「ものか」が肯否に焦点を当てるということは、南（1974）のB段階／南（1993）の判断段階にある「ナイ」に相当すると考えられる。「ことか」の“程度・量”については、同様にA段階／描叙段階に相当すると考えられる。このように、異なる階層の要素として把握することができる。

下に南（1993）が示している文の構造の輪郭の図のうち、動詞述語文と名詞述語文の図を引用する。この2つの図は、それぞれの特徴を反映して描叙段階

図1 南（1993：58）の「名詞述語文の構造の輪郭」の図

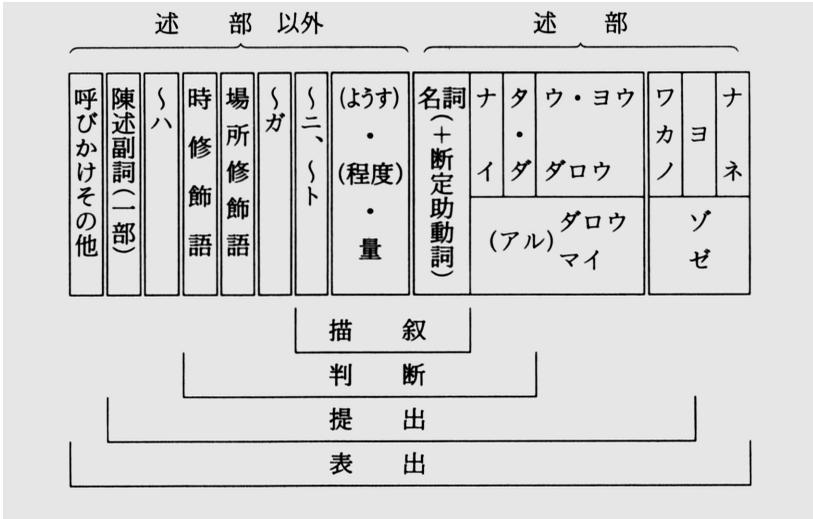
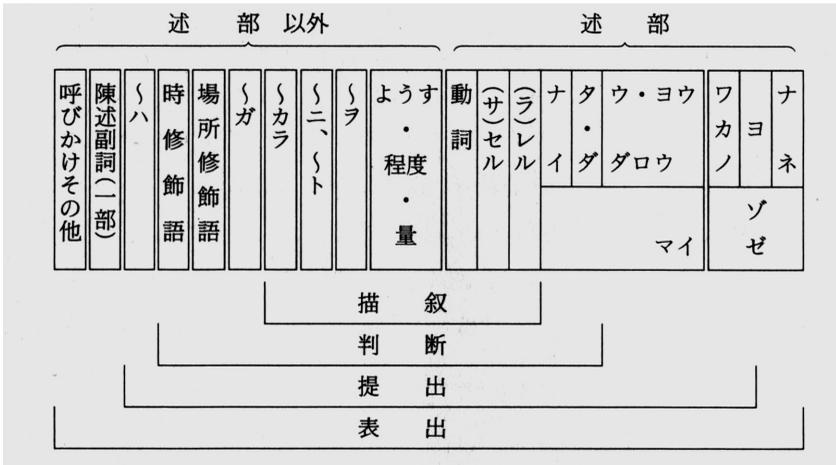


図2 南（1993：54）の「動詞述語文の構造の輪郭」の図



の内容や陳述副詞の階層に少し違いがある。

まず、名詞述語文としての「ものか」「ことか」の文の場合を考える。図1の名詞述語文に沿って考えてみよう。名詞述語文に多い主題のハは、提出段階のものとなれ、名詞(+断定助動詞)は描叙段階にある。

- 28) 提出 森君ハ [判断 [描叙 研究生ダ]]  
 29) 提出 アノ家ハ [判断 [描叙 木村サンノオ宅デス]] (以上2例は南(1993:57)より)  
 30) 提出 それは [判断 [描叙 昨日買ったもの]] か  
 31) 提出 それは [判断 [描叙 昨日聞いたこと]] か

連体修飾部は、29)の「木村さんの」のように描叙段階に含まれる。「もの」「こと」のような形式名詞の場合、より文に近い構造の連体修飾部をとるが、それは少なくとも直接にはこの図では分析の対象にならないと考える。30)31)でも単に描叙段階の内部とする。

次に複合辞としての「ものか」「ことか」の文の場合を考えてみよう。このような文は南(1974,1993)の対象にはなっていないが、連体形に接続する助動詞と同様と考え、図2の動詞述語文としての階層構造にあてはめて考える。複合辞の「ものか」「ことか」の位置は、連体形に接続する助動詞と同様に提出段階とする。「もの」「こと」の後に「か」または「だろうか」が後接することから、提出段階の中で「もの/こと+(だろう)+か」という順で位置すると考えられるが、複合辞であるので、本来の位置よりは一体化していると考えた方がいいだろう。

「ものか」文と「ことか」文に前接する部分は、判断段階までが含まれると考えられる。典型的な例文に階層をあてはめると、例えば次のような図が考えられる。

- 32) [判断 誰が [描叙 そんなことをする]] ものか。  
 33) [判断 絶対にそんなことが [描叙 ある]] ものか。  
 34) [判断 何とかそれが [描叙 でき] ない] ものか。  
 35) [判断 [描叙 どんなに心配し] た] ことか。

36) [判断私が [描叙何度連絡をし] た] ことか。

陳述副詞「絶対に」「何とか」は判断段階と考える<sup>注3</sup>。ガ格をとる主体も判断段階、ヲ格等の補語と述語は描叙段階、「ない」「た」といった助動詞と見なされる部分は判断段階とする。

この図に、さらに複合辞の「ものか」文と「ことか」文の違いを書き加えるのは難しい。あくまでこの図に沿った説明という程度で次のように述べる。複合辞の「ものか」「ことか」は、「判断段階」までを前接させるが、「ものか」の場合はその「判断段階」で決まる肯否に焦点を当てている。一方、「ことか」は、「描叙段階」の中の程度・量の部分に焦点を当てている。先に示した図のカッコをそれぞれ強調して示す。

32 (再掲) [判断誰が [描叙そんなことをする]] ものか。

33 (再掲) [判断絶対にそんなことが [描叙ある]] ものか。

34 (再掲) [判断何とかそれが [描叙でき] ない] ものか。

35 (再掲) [判断 [描叙どんなに心配し] た] ことか。

36 (再掲) [判断私が [描叙何度連絡をし] た] ことか。

このように見ると、複合辞の「ものか」が判断段階に関わるのは、複合辞の「ものか」文が関係節の構造に基づいており、「ものか」に前接する部分は“属性”としての性格を持つという傾向と関連していると見ることができるだろう。一方、複合辞の「ことか」が描叙段階に関わるのは、複合辞の「ことか」文が内容節の構造に基づいており、「ことか」に前接する部分は“内容”としての性格を持つという傾向と関連していると見ることもできるかもしれない。しかし、「ことか」については、特になぜ程度・量の部分なのかということが、十分に説明できないように思われる。今後、さらに考察を進めたい。

#### 1.4 実例の出典と出現数

ここで、実例の出典を示し、さらに BCCWJ で対象とした 8 つのジャンルを対象に、複合辞の「ものか」「ことか」の出現数の偏りについて述べる。

本稿のデータは、次の資料から採取した。

・『CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊』（新潮社、1995 年）

本文中のカッコ内に示した出典名のもとには次の通り。

(エディプス・解説)『エディプスの恋人』筒井康隆(解説:青木はるみ), (金閣寺)『金閣寺』三島由紀夫, (草の花)『草の花』福永武彦, (死者)『死者の奢り・飼育』大江健三郎, (砂の女)『砂の女』安部公房, (放浪記)『放浪記』林芙美子, (楡家)『楡家の人びと』北杜夫, (檸檬)『檸檬』梶井基次郎, (路傍)『路傍の石』山本有三, (若き)『若き数学者のアメリカ』藤原正彦

・BCCWJ(国立国語研究所 現代日本語書き言葉均衡コーパス)

「中納言」を使用して検索した。対象としたジャンルは8つで、「出版・新聞」「出版・雑誌」「出版・書籍」「特定目的・白書」「特定目的・知恵袋」「特定目的・ブログ」「特定目的・法律」「特定目的・国会会議録」である。本文中のカッコ内に示す場合は後の名称のみ示す。

BCCWJのデータについては特に、下に示す表1、2によってジャンルによる偏りを見る。表中に出現比率として示すパーセンテージは、【 】内が「もの」総数中のパーセンテージ。( )内が「ものか」総数中のパーセンテージである。パーセンテージの小数点以下は第一位までとし、第二位を四捨五入した。ただし、より小さな数の場合は、一つ下の桁を四捨五入して示した。

表を作成する際に対象にしたジャンルやデータの範囲は、下記のように限られている。

対象としたジャンルは、上でも示した8種類のみである。このうち、非コアのみの「法律」「国会会議録」以外は、コアと非コアの両方を対象にした。

「書籍」の「モノ総数」「コト総数」は、データが中納言からの読み込みの限界の100,000行を越えたので、そこまでを対象とした。

対象とした形式については、「もの」「こと」で検索をしたうち、「ものか」「ことか」の形の部分だけをここで取り上げる。そのため、「ものだろうか」「ものでしょうか」「ものですか」等は含まれない。また、後接する部分についても「。」「,」「!」「」等に限ったため、引用の「と」に接続している部分などは含まれていない。

表1 「ものか」の出現数と比率

(カッコなしの数は出現数。【 】内は「もの」出現数中の%。( )内は「ものか」出現数中の%)

ジャンル 分類	新聞	雑誌	書籍	白書	知恵袋	ブログ	法律	国会 会議録
「もの」	1,345 【100%】	9,761 【100%】	100,000 【100%】	15,340 【100%】	29,193 【100%】	20,958 【100%】	10,597 【100%】	21,733 【100%】
「ものか」	21 【1.6%】 (100%)	45 【0.5%】 (100%)	726 【0.7%】 (100%)	1 【0.007%】 (100%)	100 【0.3%】 (100%)	168 【0.8%】 (100%)	0 【0%】 (100%)	15 【0.07%】 (100%)
〈反語〉の 「ものか」	5 (23.8%)	8 (17.8%)	110 (15.2%)	0 (0%)	9 (9.0%)	28 (16.7%)	0 (0%)	0 (0%)
〈願望〉の 「ものか」	4 (19.0%)	7 (15.6%)	35 (4.8%)	0 (0%)	4 (4.0%)	16 (9.5%)	0 (0%)	2 (13.3%)
〈適当〉の 「ものか」	1 (4.8%)	2 (4.4%)	49 (6.7%)	0 (0%)	18 (18.0%)	14 (8.3%)	0 (0%)	0 (0%)

表2 「ことか」の出現数と比率

(カッコなしの数は出現数。【 】内は「こと」出現数中の%。( )内は「ことか」出現数中の%)

ジャンル 分類	新聞	雑誌	書籍	白書	知恵袋	ブログ	法律	国会 会議録
「こと」	5,343 【100%】	18,956 【100%】	100,000 【100%】	23,926 【100%】	63,555 【100%】	53,167 【100%】	7,048 【100%】	58,962 【100%】
「ことか」	11 【0.2%】 (100%)	46 【0.2%】 (100%)	247 【0.2%】 (100%)	1 【0.004%】 (100%)	40 【0.06%】 (100%)	172 【0.3%】 (100%)	0 【0%】 (100%)	2 【0.003%】 (100%)
〈感心・あきれ〉の「ことか」	2 (18.2%)	7 (15.2%)	67 (27.1%)	1 (100%)	22 (55.0%)	58 (33.7%)	0 (0%)	0 (0%)

表1、2から読み取れることについて述べる。

複合辞の「ものか」「ことか」共に、出現頻度は同様の傾向が見られた。まず、「もの」「こと」の総数の中で、「ものか」「ことか」が出現する数はあまり多くない。「ものか」「ことか」という形式は、複合辞ではないものも含めて、「もの」「こと」の表現において中心的な用法とは言えないであろう。

複合辞の「ものか」「ことか」が特に多かったのは「書籍」「知恵袋」「プロ

グ」である。反対に少なかったのは「白書」「法律」「国会会議録」である。「ものか」の各用法については、〈反語〉が総じて出現数が最も多く、〈願望〉と〈適当〉はジャンルによってどちらが多いかの違いがあった。〈感心・あきれ〉の「ことか」については、1例のみ「白書」にも出現したが、典型的な「白書」の文章の中ではなく、日記風に過去を回想する文章の中であった。

こういった傾向から推測されるのは、複合辞の「ものか」「ことか」は、文語的、書き言葉的ではあるが、公的な内容を述べる文章には出現しにくいということである。これは、複合辞の「ものか」「ことか」の、聞き手に対して示唆をするという表現上の特徴が、話し手の情緒を聞き手に感じさせる表現となっていることと関係があると考えられる。

## 2. 複合辞「ものか」「ことか」の各用法の分析

2では、複合辞の「ものか」「ことか」の各用法についてそれぞれさらに考察する。

### 2.1 〈反語〉の「ものか」

ここで〈反語〉とする「ものか」の用法は、「(～する)ものか」という問いかけの形をとって「強い否定」を表す。「強い否定」をする部分は形式には現れず、示唆されるのみである。

先行研究を見ると、例えば林(1960:160-161)は、【逆らう意志】として「まい」と一緒に「ものか」を挙げている。グループ・ジャマシイ(1998:593)は、「下降調のイントネーションを伴って、強く否定する気持ちを表す。」としている。

また、このような「強い否定」を表す〈反語〉の用法は2種類あることも指摘されている。ある事態の生起などについての強い否定の意味を表す用法と、話し手が自身の動作や行為を行わないという強い意志を表す用法である。例えば、林(1960)は、「本来、否定判断を強く伝達する語で、内容が自己の行為になるとき、否定的受け合いとなる。」としている。また、森田・松木(1989:156)は、「活用語の連体形を受けて、相手の言葉・考えなどに強く反

対・否定の態度を示したり、“決して～ない”の意で、ある動作・行為を行わないことへの固い決意を表したりする。反語のニュアンスが伴う場合もある。」としている。

〈ある事態を否定する〉用法

- 37) 「自慢ですって？ なんということを！ 人間が死をまえにして、自慢なんぞしていられるものですか。(楡家)
- 38) またそれが客観的に最上であるにしたところで、どんな根拠でそうなのか、それは非常に深遠なことと思います。どうして人間の頭でそんなことがわかるものですか。——これがK君の口調でしたね。(檸檬)
- 39) ほーら。やっぱりだ。こんな話だれが信用するもんか。(BCCWJ：雑誌)

〈否定の意志を示す〉用法

- 40) おれだって役に立たないはずはないのだ。どんなことをしたって、女の子になんか負けるものか。(路傍)
- 41) 初めのうちは、そんな手に乗るものかと頑張っていたのだが、いかにも感心したようにそういった私の喜びそうなことを話すので、単純な私は少しずつ気分が良くなって来た。(若き)
- 42) あれから三ヶ月近く経ってるけどあたしにはつい昨日のことのよう。くやしかった。悲しかった。だけど泣くもんかと思った。篤樹の思い通りなんかになってたまるもんか。篤樹があたしを裏切り続けるのなら、あたしは篤樹と別れるつもりだ。(BCCWJ：雑誌)

これら2種の用法の違いについては、〈ある事態を否定する〉用法は、事態全体を対象としてその生起を客観的に否定する表現であり、〈否定の意志を示す〉用法は、意志的あるいは無意志的動作が生起することを、意志的に否定する表現であるというように見るができるであろう。また、おそらくこのような意味上の違いと関連して、後者の〈否定の意志を示す〉用法は、「だろう」を加えた「ものだろうか」の形では言いにくいようである。これはこの後者の

用法が、話し手にとってははっきりと断定しやすいという特徴があるためと考えられる。

ここで、〈反語〉という概念について簡単にではあるが確認しておこう。『日本語文法大辞典』の「反語」の項目の冒頭の部分から一部を引用する。また、下で触れる部分に下線を引く。

- 43) 話し手が自己の判断に確信を持っているにもかかわらず、肯定判断なら否定の疑問表現で、否定判断なら肯定の疑問表現で問いかけ、話し手と同じ判断を聞き手に要求する表現をいう。(中略)話し手と同じ判断をしなければならないという制約があるとはいえ、聞き手も判断に加わるので、話し手と聞き手との間に強い共通認識が成立する。それが、話し手からの強制ともとれる。こうした表現効果を一般に「強調」と呼ぶ。聞き手に独自の判断をさせないという点で、〈疑問〉とは異なる。このように表現意図という点では〈反語〉と〈疑問〉とは異なるが、表現方法という点では〈反語〉は〈疑問〉の範疇に属する。(「反語」(執筆:小松光三)『日本語文法大辞典』2001 明治書院 p.668)

下線を引いた「聞き手も判断に加わる」という箇所は、実際にそうなのかという疑問があるが、これは実際の伝達のことではないであろう。〈反語〉の用法は会話だけでなく、話し手が引用によって思考内容を述べる発話や、書き言葉にも見られるので、話し手の最終的な判断が、聞き手がその通りに解釈するという想定で示唆される表現であるという考えるべきであろう。

案野(2003)は、「ものか」の〈反語〉の文について、安達(1999)の言う「傾きの疑問文」が問いかけ性を有し、「聞き手の肯否の答えを期待している」のに対し、〈反語〉の文は、「発話時において話し手が「聞き手の肯否の答えを期待していない」という特徴を指摘している。案野氏は下の44)の〈反語〉の例を、45)の安達氏の例文と対比させている。

44) 子どもにこんな難しい問題ができるものか。

45) 原田「小さいころからえんえんと続くリング畑の中で1日リングの甘

い香りをかいで遊んだ……時々酔っぱらって寝た夜なんかに……そのかおりを思い出すことがある。……朝が来れば忘れるけどね」

夏子「帰りたいって思いませんか？

原田「思わんね」

(安達 1999 : 24 (尾瀬あきら『夏子の酒 1』) (案野 2003 が引用))

筆者も、以上のような「反語」の定義や疑問文との違いを認めた上で、〈反語〉の「ものか」のこのような特色は、文法的な要素として一体化した複合辞であるからと考える。そして、〈反語〉だけでなく、その他の「ものか」の用法や「ことか」にも、同様に、話し手の判断の範囲に問いかけとその答えの示唆までを含むという表現の特徴が共通していると考ええる。

「ものか」も「ものだ」と同様に、“一般化”をする表現とする捉え方もある。山口 (2004 : 六) は、「ものか」の反語文の一特徴として、直接する活用語がル形をとることなどから、「一般論の世界の表現」であるとしている。

46) 「それで地蔵様は動いたの？」「動くもんですか」

47) 「ある日藤さんが散歩に出たあとで、よせばいいのに苦沙彌君が一寸盗んで飲んだ所が…」「おれが鈴木の味醂杯を飲むものか、(略)と主人は突然大きな声を出した。」(2例とも、夏目漱石『吾輩は猫である』より。(山口 (2004) による))

このような例については、話題になっている事態は個別的であっても、それをある程度“一般化”した表現を用いて否定しているというように捉えられる。しかし、47) のような用例については特に、話し手が自分について一般化するという説明には少し無理があるように思う。

おそらく、そのような例にも「一般」という概念を当てはめる場合は、現実世界における一般的な現象としてではなく、主体は個別であることを認めた上で、その他の文法的な部分について「一般」とすることになると思う。

筆者の捉え方としては、複合辞の一部としての「もの」は、関係節の構造に基づく「属性」を持つという特徴があり、「ものか」の表現においても、個別

的な事態を文法的に一部捨象していると考ええる。その場合、例えばテンスや主体などの具体性が捨象されれば、やはり〈一般性〉という意味特徴があると捉えるので、上の考え方と大きくは違わないが、さらに、〈一般性〉があてはまらないものについては、〈確定性〉があるという見方をする。〈反語〉の「ものか」についても、肯否に焦点を当てた表現であるから、〈一般性〉というより〈確定性〉と考えた方がより適切と考えられる。

複合辞の「ことか」と関連した問題として、「ものか」にも程度を表す疑問詞を伴う例が見られるということがある。

48) 私たちは、犬を失った苦しみを語り合わなかった。言葉はなんと無力なものか。夫婦がふたり向かい合う食事のテーブルで、おこぼれをねだる犬の気配のどこにもないこと。それを埋める言葉はなかった。

(BCCWJ：書籍)

49) きみのこと、僕たちのこと、これから生まれる子供のこと、自分が父となる子供のことを考えたよ。今になってやっとわかった。父親、そして実の父親がいないのならその代わりになる者、それがどれほど大切なものか。(BCCWJ：書籍)

山口(2000：114)が「『ものか』の文が感動の意味を表す場合がある」として〈反語〉の用法とは区別している例も、これに近い用法と考えられる。

50) 他の庭内に忍び入りたるものが斯く迄平気に睡られるものかと、(夏目漱石『吾輩は猫である』(山口(2000)による))

これらは程度・量のはなはだしさを表してはいるが、48) 49) は名詞述語文としての性格が強く、50) は「のか」に近いように感じられる。出現数としても多くはないので、〈感心・あきれ〉の「ことだ」とは区別して扱う。

## 2.2 〈願望〉の「ものか」

ここで〈願望〉とする「ものか」の用法は、動詞否定形に「ものか」が付き、反対の肯定の願望を表す表現である。肯定の願望については示唆されるのみであり、この点で〈反語〉と共通している。下の52) 53) のように、前接

する否定形式に、可能の「できない」や、やりもらいの「してくれない」が見られるのも特徴的である。話し手にとって望ましい状況が実現することを望む表現と言えるであろう。

複合辞「ものだ」にも、「～したいものだ」「～してほしいものだ」といった形をとる〈願望〉の「ものだ」があり、両者は類似した表現と言える。その一方で、言い切りの形の「ものだ」は、話し手の行為についても、望ましい出来事の生起についても、改めて話し手の〈願望〉としてまとめるが、問いかけの形をとり否定形に後接する「～ないものか」では、話し手が働きかけられない望ましい状況の生起が対象になるというように、形式に応じた意味の違いがあると言える。

51) 山のように厚いノートはないものか、枕のようにでっかいノート。

(放浪記)

52) いまの日本にも、江戸時代の私塾のごとく師弟関係が親子のように濃密な教育をつくることは可能だろうか。特に会社の「人づくり」にその本質を活かせないものか。(BCCWJ：ブログ)

53) ハンガリー出身の女優エヴァ・バルトーク、デルマー・デイヴズ、ランドルフ・スコット…。映画史の中心にはいない彼らがいかに大事だったか。本当にどこかの広告代理店がこんな「ハリウッド・クラシック映画祭」を開いてくれないものか。(BCCWJ：新聞)

上に示した例は、話し手が自問や引用のような形で願望を表現しているが、1でも触れたように、〈願望〉の「ものか」は聞き手への問いかけが可能である。グループ・ジャマシイ (1998) は、これを「ひかえめな依頼の表現として用いられることもある。」としている<sup>注4</sup>。

54) だれかに協力してもらえないものだろうか。

55) A：彼と話しができないものでしょうか。

B：何とか方法を考えましょう。

(以上2例ともグループジャマシイ (1998) による)

また、グループ・ジャマシイ (1998) が「V-ないものだろうか」という項

目名でこの用法を扱っているように、「ものか」だけでなく「ものだろうか」という形式でも使われやすいようである。〈反語〉でも、「そんなことができるものだろうか」というように「ものだろうか」を使った表現は可能であろうが、「\*負けるものだろうか (負けるものか)」「\*誰がそんなことするものだろうか (誰がそんなことするものか)」のように、否定の意志を示す用法を中心に、「ものだろうか」が使用できない場合があるようである。それに比べると、この〈願望〉の「ものか」は、対応する範囲がより広いようである。

聞き手に対する問いかけの例として興味深いのは、林 (1960) が言語活動の構造を図式化して示す際に示している、〈願望〉の「ものか」に該当する例文である。文の階層構造としては、本研究では先に見た南 (1974、1993) のモデルを参考にすが、その前の段階の研究に、〈願望〉の「ものか」の例文が使用されているということにはここで触れておきたい。

図3 林 (1960 / 2013 : 120) の「言語活動の構造」の図

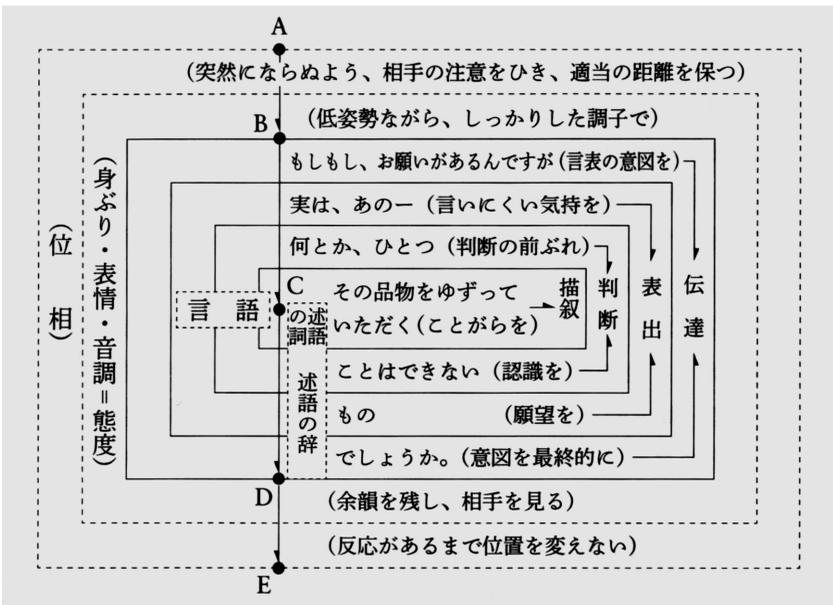


図3では、「ものでしょうか」の「もの」の部分については（願望）とあり、「実は、あのー」と対応する「表出」段階とされている。「でしょうか」の部分については（意図を最終的に）とあり、「もしもし、お願いがあるんですが」と対応する「伝達」段階とされている。

現在の筆者の立場から見ると、特に「もの」の部分については、これだけで（願望）を表すとするのは妥当ではないように思われる。これは、「ものか（ものだろうか）」が、切り分けて意味・機能を見ることができない複合辞であるためである。

### 2.3 〈適当〉の「ものか」

ここで〈適当〉とする「ものか」の用法は、疑問詞「どうした」等に直接付くか、動詞のタ形や、「どうしたら～いい」「～てもいい」といった形で形容詞「いい」に付いて、適当な選択についての問いを述べる表現である。

「Xしていいものか」という形式の場合、〈反語〉〈願望〉と同様に肯否が焦点になっているが、反対を示唆するのではなく、肯否のいずれかについて決めかねることを表している。さらに疑問詞を伴う「どうしたものか」「いくつ（～タ形）ものか」を見ると、これらはある適当な行為の選択について決めかねることを表している。

- 56) さて、今朝4時の自宅上空は、雲はあるものの☆が幾つも瞬いていました。家を出たのは田貫湖のライブカメラに富士山が写ったのを確認してからでしたが、午前4時四十分白糸まで来たところで悩みました。田貫湖へ行くべきか、それとも朝霧方面まで行ってもいいものか。(BCCWJ：ブログ)
- 57) 仕事を休職する同僚に、メッセージカードを送ります。「また戻ってきてね」というメッセージでいいものか、書こうとして不安になりました。こういう場合、どういうメッセージが適しているのか教えてください。(BCCWJ：知恵袋)
- 58) もちろん本人の目的は京都観光にあるとしても、案内する暇がなく、どうしたものかと迷っております（早稲田大学語学教育研究所編『外

国学生用 日本語教科書 中級』第二部（森田・松木 1989）

59) 大京町のマンションでは珍しいものを見た。ふろ嫌いで有名な先生の入浴を目撃したのである。伺いますと前もって連絡したから、玄関のドアが開いてることには疑問を持たなかった。声をかけながら入ってゆくと、返事がない。奥さまも買い物にでも出たものか、姿がない。はてどうしたものかと思案にくれた時、浴室から音が聞こえた。もしやと待つと案の定、先生が裸で出てきた。（BCCWJ：新聞）

60) 「窓をいくつかつけたものかと僕はひじょうに気をもんだことがあったっけ……」（国木田独歩『牛肉と馬鈴薯』（森田・松木 1989）

このように見ると、〈適当〉は、〈反語〉〈願望〉とは少し異なる表現ということになるだろう。適当な選択についての問いという点では比較的疑問文に近いと言えるが、話し手の自問として、「どうしたものかと迷う」のような引用の形式も目立つ。

また、〈願望〉もそうであるが、聞き手への問いかけも可能である。例えば、グループ・ジャマシイ（1998）は「どうしたもの（だろう）か」を一つの項目として扱い、「どのように行動すべきか分からずに戸惑う気持ちを表す。相手がいる場合は質問の表現としても用いられる。」としている。

18（再掲）反対派への説明はどうしたものかね。

このように、疑問文としての性格は認められるものの、話し手の自問の形式としてまとまった意味を持つと考えられるため、これも複合辞「ものか」の一用法と考える。

なお、疑問詞を伴うとは言っても、「ことか」が程度・量の疑問詞をとるのは異なる。〈適当〉の「ものか」は行為の選択に関する疑問詞をとる。

〈適当〉の「ものか」に前接する要素も、〈反語〉〈願望〉とは少し異なるようである。塩塚・江口（2006）は、〈適当〉の「ものか」に前接する動詞が意志動詞に限られることを指摘しているが、さらに「いい」等の評価の形容詞を伴うこと、また動詞のみの場合はタ形になることを考えると、「ものか」に直接、前接するのは形容詞的な要素であり、それがある意志的な動作を選択する

ことの評価を述べていると考えられるのではないかと思う。

なお、疑問詞が使用される例については、先行研究では取り上げられていないようであるが、「いかがなものか」がある。これは〈適当〉であることを問うというより、否定的な答えを示唆する表現と捉えられるため、〈反語〉に近いと考えられる。

- 61) さっき大臣は児童福祉法のことをおっしゃいましたが、児童ということになりますと各法律の年齢の区切りが違うんですね。道路交通法などでは六歳から十三歳です。ですから、それぞれの法律でこれだけ児童の区切りが違うにもかかわらず、新しい条約にまでまた児童という言葉を使うのはいかがなものか。(BCCWJ：国会会議録)
- 62) このあたり、ライダーの技量とはおよそ関係の無い部分で速さに差がつくため、コンペティションとしていかがなものか? (BCCWJ：ブログ)

ここまで見てきたことをもとに〈適当〉の「ものか」における「もの」の特徴を考えると、〈反語〉〈願望〉の用法より、名詞としての性格を強く持っていると言えるようである。前接する要素が、適切さに関する形容詞的な性格を持っていることから、そのように考えられる。ただし、その一方で「もの」の部分には、適切さを受けて問いにするので、〈確定性〉を持つと考えることもできるであろう。

## 2.4 「ことか」の用法

「ことか」については、「ことか」文は「どんなに」「何回」といった疑問詞を伴って、程度のはなはだしさを述べる用法がこれまで指摘されている<sup>注5</sup>。本稿でもこの〈感心・あきれ〉の用法について見る。

グループ・ジャマシイ (1998) は、この表現について「それがどの程度・どれほどの量であるかが特定できないぐらい、はなはだしいという意味を表す。」とする。また、森田・松木 (1989) は、「自分だけの判断でそう思い込むとい

うニュアンスがこめられている。」という指摘をしている。

63) ああ、その時僕がどんなにドキドキしたことか。(高橋(他)2005)

64) しみながらも自在に「掛け金」の操作のできる七瀬は、筒井康隆にとってどんなにか大切な得がたい役者であったことか!(エディプス・解説)

65) それにしても死者たちは生者に比べて、何と愛され易い姿をしていることか!(金閣寺)

66) 酒飲みの自分としては 自分にも他人にも酒飲んでの失態に甘い。何回失態繰り返した事か。(BCCWJ:プログ)

67) 真面目に回答を出しても、その内容が「袋」の判断基準からずれていると、やられます。小生も今まで何度痛い目に会っていることか。これもまた、削除隊にやられそう。(BCCWJ:知恵袋)

ここで使用されている疑問詞には、「どんなに」「何と」といった程度を表わす疑問詞や、「何回」「何度」といった回数を表わす疑問詞がある。前者が「ドキドキした」という事態にも、「大切な得がたい」という属性にも使用されるのに対し、後者は事態のみに使用されると言えるであろう。

多くの例では、程度や回数の多さが表現される。また、対象となるのは、すでに生起した事態か、形容詞等で表わされる状態が主である。しかし次のように、程度や回数の少なさを表現し、また、事態の生起を仮定する表現をしている例もある。

68) どこに物を置いたか忘れてしまったとき、それを呼んで返事してくれたらどれだけイライラせずに済むか。時間を無駄に費やさずに済むことか。(BCCWJ:知恵袋)

この複合辞の「ことか」の文が焦点を当てる程度や回数は、南(1974、1993)の文の階層構造においては、「描叙段階」の「程度」「量」の副詞に該当すると考えられる。次のように程度・量のはなはだしさを表す副詞や副詞句に置き換えると、これらが類似しており、さらに「ことか」文の方が、示唆をする分、よりはなはだしさを強調していると言える。

- 63') その時僕はとてもドキドキした。
- 64') 七瀬は、筒井康隆にとって非常に大切な得がたい役者であった。
- 65') 死者たちは生者に比べて、とても愛され易い姿をしている
- 66') 酒飲みの自分としては、自分にも他人にも酒飲んでの失態に甘い。  
何回も失態繰り返した。
- 67') 小生も今まで何度も痛い目に会っている。
- 68') 多くの時間を無駄に費やさずに済む。

「ことだ」文との関係を考えて、〈当為〉と〈感心・あきれ〉のうち、〈感心・あきれ〉の方に近いと考えられる。

- 69) その話を聞いて、どんなにあきれたことか。
- 70) そんな話をするなんて、あきれたことだ。(〈感心・あきれ〉の「ことだ」文)
- 9 (再掲) 試験に合格したいなら、一生懸命勉強することだ。(〈当為〉の「ことだ」文)

必ずしも 69) と 70) のように同様の内容で対応するわけではないが、これらの例を見ると、「あきれたことだ」として表現される〈感心・あきれ〉の感情が、「どんなにあきれたことか」で程度がはなはだしいものとして強調されていることが分かる。

〈感心・あきれ〉の「ことだ」文については、先に、事態を個別的に把握して話し手の評価などを示す表現であることが〈指定性〉に通じるのではないかという見方を示したが、事態を個別的に把握するという点は「ことか」文にも共通している。

9) の〈当為〉の「ことだ」文が持つ、ある意志的な行為をすることを提案するというような意味は、「ことか」文には認めにくい。複合辞の「ことだ」に前接するのは意志動詞に限られるが、「ことか」にはそのような制約はない。また、前件と後件の関係についても、〈当為〉の「ことだ」文に見られる、目的と手段のような関係より、〈感心・あきれ〉の「ことだ」文に見られる因果関係の方が近いようである。このため、〈当為〉の「ことだ」文について想定

した〈指定性〉という特徴も、「ことか」文には認めにくい。

「ことか」と〈感心・あきれ〉の「ことだ」の関連が指摘されている文献として、高橋（他）（2005）が挙げられる。「②感動的に回想・評価する「シタコトダ」「シタコトカ」」（p.233）では、「感動表現は、疑問詞系の修飾成分やモーダルな成分、あるいは終助辞にささえられることがおおいが、「シタコトデアッタ」には、そのようなささえなしで感動表現になるものがある。」としている。ここからは、「ことか」の文については「疑問詞系の修飾成分」や「終助辞」（ここでは「か」であろう）が、表現が成り立つ必須の要素になっているという見方を読み取ることができる。

#### 4. まとめ

以上、本稿では、筆者の観点から、複合辞の「ものか」と「ことか」の文を対比させて論じた。これらの表現は、「Nカ」のかたちで、ある事態についての話し手の捉え方や意志を、聞き手に示唆をする部分を伴って表現する形式と言える。そのような表現のうち、本稿では「ものか」と「ことか」を扱った。

複合辞の「ものか」については〈当為〉〈願望〉〈適当〉の用法を認め、「ことか」については〈感心・あきれ〉の用法を認めた。「ものか」の特に〈反語〉の用法は、肯否の判断に焦点を当てた表現であり、一方、「ことか」の用法は、内容の程度・量に焦点を当てた表現である。この違いについては、文の階層構造との関連があると考えた。

このような特徴を持つ背景として、複合辞の「ものか」の文は、関係節の構造に基づく“属性”を持つ傾向があり、複合辞の「ことか」の文は、内容節の構造に基づく“内容”を持つ傾向があると考えた。

また、複合辞の「ものか」と「ことか」は、「もの」「こと」の表現の中ではけっして大きな割合を占める表現ではないが、文章のジャンルによって出現しやすさの偏りがあることも観察した。そこからは、聞き手に対して示唆をするという表現上の特徴が、話し手の情緒を聞き手に感じさせる表現となっていることが影響していると考えられた。

各用法については主に次のような点を見た。

〈反語〉の「ものか」については、〈ある事態を否定する〉用法と〈否定の意志を示す〉用法の2種があることを見た。また、先行研究における反語の定義、疑問文との違いを見た。さらに「もの」を含む複合辞が〈一般性〉か〈確定性〉という特徴を持つとする立場から、〈反語〉の「ものか」については〈確定性〉を持つと考えた。

〈願望〉の「ものか」については、動詞否定形に「ものか」が付き、反対の肯定の願望を表す表現であることから、〈反語〉と同様に肯否に焦点を当てた表現であると考えた。〈反語〉に比べると聞き手に問いかける文にもなりやすく、また、「だろう」が介在しやすいといった特徴を見た。

〈適當〉の「ものか」については、〈反語〉〈願望〉のような肯否に焦点を当てる表現ではないという点を見た。また、「もの」が名詞として形容詞的な修飾部に修飾されるという構造上の特徴があることから、〈反語〉〈願望〉とは少し異なる複合辞の表現と考えた。

「ことか」については、〈感心・あきれ〉の「ことだ」との類似から、完全に同じではないが、〈感心・あきれ〉の用法として見た。程度を表す疑問詞、量を表す疑問詞それぞれの特徴や、〈感心・あきれ〉の「ことだ」との違いを見た。

以上のようにまとめた各用法の他に、完全に分類できない用法もあることをいくつか指摘した。しかし全般的に見ると、これらの用法のグループにまとめられることは確かだと思う。

以上のような複合辞の「ものか」「ことか」についての考察は、まだ十分なものではない。「Nカ」の形式を持つ複合辞としての性格について、全般的にも、また各形式についても、さらに明確にしていきたい。

## 注

1. 山口（2004）を参照した。
2. 田中（2010：480）は、本稿で対象とする複合辞の「ことか」の用法に該

当すると思われる「[「ことか」「ことだろうか」の詠嘆、疑念用法]」について、「話し手の感情のこもった表現で反語文の一種である。」としている。本稿では複合辞の「ものか」「ことか」に似た側面があることは認めるが、「ことか」の用法については反語の一種とは考えない。

3. 南（1993：91）で、「ケッシテ、ロクニ、ジツニ」等がB類（判断段階）の句とされていることによる。ただし、この例文においては、「絶対に」については特に、「ものか」と対応させた方がよいかもしれない
4. 塩塚・江口（2006）は、「モノ」が付加された文は聞き手に直接働きかけることができない文を形成する。」等の述べ方で、「ものか」の3つの用法が疑問文にならないとしている。しかし、「ものだろうか」の形なら、特に〈願望〉の用法と、次に見る〈適当〉の用法については疑問文になるため、「もの」の付加による説明だけでは不十分と思われる。（塩塚・江口（2006：注10）にも同様のことが述べられている）
5. その他の「ことか」の用法の一例として、「かまうことか」が挙げられる。これは、〈反語〉の「ものか」と考えられる「かまうものか」について、筆者には「かまうことか」も可能なのではないかと感じられたため、用例を調べてみたところ、コーパスのデータにはなかったが、Yahoo! Japanで「かまうことか」の形で検索すると、いくつか該当する例があった。（ヒット数は約214000件。最終閲覧：2014年5月1日）下に1例を挙げる。

（ブログの記事「本日の産経 SHOW と阿久根政界 NOW」（2010年4月19日付）による。URLは<http://d.hatena.ne.jp/slapnuts/20100419>。この部分は「産経抄 2010年4月19日」からの引用である）

原稿を終えたら、八百屋さんに直行しよう。野菜の値段の高騰は、連休明けまで続くそうだが、かまうことか。食べ物の季節感がどんどん失われていくなかで、貴重な大地の恵みである。サンショウの若芽の出盛りと重なるのもうれしい。ピリリとした香りが、タケノコの滋味を引き立てる。

## 参考文献

- 安達太郎 1999 『日本語疑問文における判断の諸相』 くろしお出版
- 案野香子 2003 「〈反語〉のモノカ文の表現機能：動詞句を中心に」『静岡大学留学生センター紀要』 静岡大学
- グループ・ジャマシイ（編著）1998 『教師と学習者のための 日本語文型辞典』 くろしお出版
- 塩塚香織・江口正 2006 「文末表現「モノカ」についての考察」『福岡大学日本語日本文学』 16号 福岡大学日本語日文学会
- 高橋太郎（他）2005 『日本語の文法』 ひつじ書房
- 高橋雄一 2010 「複合辞の「ものだ」についての一試論 —内容節的な構造を手掛かりに—」『専修国文』 87号 専修大学日本語日本文学文化学会
- 高橋雄一 2012 「複合辞の「ことだ」についての一試論」『人文論集』 91号 専修大学学会
- 田中 寛 2010 『複合辞からみた日本語文法の研究』 ひつじ書房
- 西山佑司 2003 『日本語名詞句の意味論と語用論』 ひつじ書房
- 日本語記述文法研究会（編）2003 『現代日本語文法4 第8部 モダリティ』 くろしお出版
- 林 四郎 1960 『基本文型の研究』 明治図書出版（復刊 2013 ひつじ書房）
- 三上 章 1953 『現代語法序説—シンタクスの試み—』 刀江書院（復刊 1972 くろしお出版）
- 南不二男 1974 『現代日本語の構造』 大修館書店
- 南不二男 1993 『現代日本語文法の輪郭』 大修館書店
- 森田良行・松木正恵 1989 『日本語表現文型』 アルク
- 山口佳也 2000 「「もの」の用法概観」『私学研修』 第154・155号 私学研修福祉会
- 山口佳也 2004 「「ものか」の反語文について」『十文字学園女子大学短期大学部研究紀要』 35号 十文字学園女子大学短期大学部